

2007年2月中間期業績 及び通期業績見通し

松下 正

株式会社ファーストリテイリング
取締役

1

取締役の松下です。

【連結】 2007年2月中間期 PL

売上高: 2,841億円 (前年同期比 +19.1%)
営業利益: 431億円 (前年同期比 5.2%)
経常利益: 426億円 (前年同期比 9.7%)

	2006年2月 中間期 実績	2007年2月中間期			
		直近予想 (1/11修正)	実績	前年同期比	直近予想比
売上高 (売上比)	2,386 100.0%	2,820 100.0%	2,841 100.0%	+19.1%	+0.8%
売上総利益 (売上比)	1,124 47.1%	1,327 47.1%	1,316 46.3%	+17.1% (- 0.8p)	0.8%
販管費 (売上比)	669 28.0%	885 31.4%	884 31.1%	+32.2% (+ 3.1p)	0.0%
営業利益 (売上比)	455 19.1%	442 15.7%	431 15.2%	5.2% (- 3.9p)	2.4%
経常利益 (売上比)	471 19.8%	447 15.9%	426 15.0%	9.7% (- 4.8p)	4.6%
特別損益 (売上比)	7 0.3%	7 0.2%	0 0.0%	- (+ 0.3p)	-
当期利益 (売上比)	265 11.1%	240 8.5%	226 8.0%	14.6% (- 3.1p)	5.5%

単位: 億円

2

まず、2007年中間期の連結業績についてご説明します。

中間期では、売上高は2,841億円、前年同期比19.1%増、
 営業利益431億円、前年同期比5.2%減、
 経常利益は426億円、前年同期比9.7%減となりました。

次のスライドで、連結の損益状況につき、少し詳しくご説明します。

売上高 2,841億円 (前年同期比 +19.1%、+455億円)

- 国内ユニクロ事業 新規出店・既存店による売上増 +196億円
- フランス事業 プティ ヴィクル +56億円、コントワー・デ・コトニエ事業 +40億円
- 連結子会社増加 キャビン+117億円、ジーユー +13億円

売上高総利益率 46.3% (前年同期比 0.8p)

- 国内ユニクロ事業の売上高総利益率の低下 2.0p

売上高販管費比率 31.1% (前年同期比 +3.1p)

- 新規連結子会社増加等による人件費率・賃借料率の上昇 +2.1p
- のれん償却 +19億円、+0.7p

営業利益率 15.2% (前年同期比 3.9p)

経常利益率 15.0% (前年同期比 4.8p)

3

まず売上高は2,841億円と、455億円の増収となりました。

増収のおもな要因は、国内ユニクロ事業の196億円の売上増、フランス事業におけるプティ ヴィクル社の56億円の新規連結、コントワー・デ・コトニエ事業の40億円の売上増、キャビンの新規連結117億円、同じくジーユーの13億円などです。

売上高総利益率は46.3%と前年同期比で0.8ポイント低下いたしました。これは、後ほどご説明いたしますが、国内ユニクロ事業の売上高総利益率が低下したことが主な要因です。

売上高販管費比率は、前年同期比で3.1ポイント上昇しております。このうち、人件費や賃借料の経費比率が高い子会社が連結されたことによる上昇が2.1ポイント、昨年のM&Aにともなうのれん代の上昇が0.7ポイントとなっております。

なお、のれん償却は、昨年から19億円増加し、21億円となっております。

これらの結果、経常利益率は15.0%となりました。

売上高9.1%増、営業利益5.7%減

単位：億円

	2006年2月 中間期実績	2007年2月中間期			
		直近予想 (1/11修正)	実績		
				前年同期比	直近予想比
売上高 (売上比)	2,146 100.0%	2,326	2,342 100.0%	+9.1%	+0.7%
売上総利益 (売上比)	998 46.5%	1,055 45.3%	1,043 44.5%	+4.5% (2.0p)	1.1%
販管費 (売上比)	566 26.4%	633 27.2%	635 27.1%	+12.3% (+ 0.7p)	+0.3%
営業利益 (売上比)	432 20.1%	421 18.1%	407 17.4%	5.7% (2.7p)	3.2%

(注) 国内ユニクロ事業の業績については、2007年8月期より㈱ユニクロの業績数値を開示しています。この数値と対応させるため、2006年8月期の実績値は、2005年9月から2005年10月の2ヶ月間の旧㈱ファーストリテイリング単体ベースの実績に、2005年11月から2006年2月の㈱ユニクロの実績を加算しております。(2006年4月13日発表の中間期スライドに掲載してありました国内ユニクロ事業の社内管理数値には、2005年8月期との比較のため、持株会社である㈱ファーストリテイリングの販管費が含まれています) ㈱ユニクロの2006年8月期業績数値については、本説明スライド23番をご参照ください。

4

次に、国内ユニクロ事業について、ご説明いたします。

国内ユニクロ事業は、今期より株式会社ユニクロの業績を開示しております。

株式会社ユニクロの中間期の売上高は2,342億円、前年同期比9.1%増、営業利益は407億円、前年同期比5.7%減の結果となりました。

売上高は計画を上回り、販管費もほぼ計画通りではありましたが、売上高総利益率が低下したことにより、減益の結果となりました。

中間期売上高 2,342億円 (前年同期比 +9.1%)

- ユニクロ直営店 前中間期末比 31店舗増 (07年2月末 713店舗)
- 既存店売上高 前年同期比 +2.9% (06年中間期末実績: 前年同期比 +0.5%)

客数 前年同期比 +2.7% スキニーボトムス、11月販促強化、冬物在庫処分
 客単価 前年同期比 +0.2% 高付加価値商品の投入

【国内ユニクロ事業 既存店前年比】

前年比増減率		2007年2月中間期						
		9月	10月	11月	12月	1月	2月	中間期計
既存店計	売上高	+12.6%	4.5%	+8.0%	3.3%	+8.9%	+3.3%	+2.9%
	客数	+9.8%	1.1%	+5.7%	3.9%	+8.1%	+1.9%	+2.7%
	客単価	+2.6%	3.4%	+2.2%	+0.5%	+0.7%	+1.4%	+0.2%

FC店 18店舗を除く

国内ユニクロの中間期増収の要因は、店舗数が前年同期比で31店舗増加し、売場面積も拡大していること、既存店売上高が前年同期比で2.9%増加したことです。

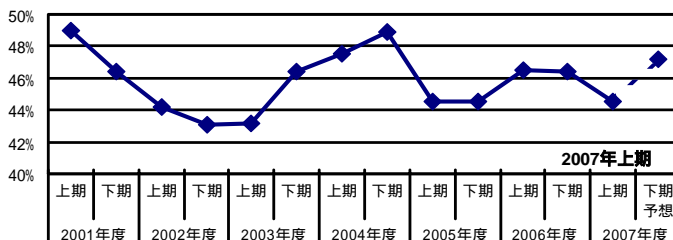
既存店の売上高は、スキニーボトムスを中心としたキャンペーンや、11月の販売促進の強化、1月からの冬物在庫処分などにより客数が伸び、増収となりました。

客単価につきましては、スキニージーンズや、ヒートテックインナーといった高付加価値商品の投入により、若干の上昇傾向が続いております。

売上高総利益率 44.5% (前年同期比 2.0p)

- 11月 集客のための販促強化に伴う値引販売の実施
- 12月以降も暖冬傾向が続き、値引販売を継続
- 1月、2月における冬物最終処分の強化

国内ユニクロ 売上高総利益率のトレンド (半期ベース)



6

次に国内ユニクロの売上高総利益率ですが、44.5%と、前年同期比で2.0ポイント低下いたしました。

第1四半期は、10月後半になっても気温が下がらず、冬物の立ち上がりが遅れたため11月に「まとめ買い」など販促目的の値引販売を実施しました。

第2四半期は、12月後半に暖冬傾向が続き、値引販売を継続したこと、また、1月、2月と冬物在庫の最終処分を強化したことにより、売上高総利益率が低下いたしました。

【国内ユニクロ】販管費

売上高販管費比率 27.1% (前年同期比 +0.7p)

- 人件費 +0.3ポイント: 求人費増・店舗人件費など
- 賃借料 +0.2ポイント: 都心ビルイン型、SCへの出店
- その他 +0.3ポイント: ロイヤリティ支払(2ヶ月分増加)など

単位: 億円

	06/2中間期		07/2中間期			
	実績	(売上比)	実績	(売上比)	増減	(売上比)
販管費合計	566	26.4%	635	27.1%	+69	+0.7p
人件費	197	9.2%	222	9.5%	+25	+0.3p
広告宣伝費	100	4.7%	109	4.7%	+9	+0.0p
賃借料	144	6.7%	161	6.9%	+16	+0.2p
減価償却費	9	0.4%	9	0.4%	+0	+0.0p
その他	114	5.4%	132	5.7%	+17	+0.3p

(注) 国内ユニクロ事業の業績については、2007年8月期より、㈱ユニクロの業績数値を開示しています。この数値と対応させるため、2006年8月期の実績値は、2005年9月から2005年10月の2ヶ月間の旧㈱ファーストリテイリング単体ベースの実績に、2005年11月から2006年2月の㈱ユニクロの実績を加算しております。(2006年4月13日発表の中間期スライドに掲載してありました国内ユニクロ事業の社内管理数値には、2005年8月期との比較のため、持株会社である㈱ファーストリテイリングの販管費が含まれています)

7

国内ユニクロの販管費は前年同期比で69億円増加しておりますが、ほぼ計画通りの水準となっております。

売上高販管費比率は前年同期比で0.7ポイント上昇しておりますが、この要因としては、

まず、採用の拡大にともなう求人費増、店舗人件費増により、人件費比率が0.3ポイント上昇したこと、

次に、都心ビルイン型、ショッピングセンターなどの店舗が増えているため、賃借料率が0.2ポイント上昇したこと、

また、持株会社へのロイヤリティ等の支払対象期間が4ヶ月から6ヶ月となったことにより、その他の経費の対売上高比率が上昇したことです。

単位：億円

	ジーユー		ワンゾーン		FR フランス 1	
		売上比		売上比	[仏国]	売上比
連結対象期間	06/9～07/2		06/9～07/2		06/9～07/2	
売上高	13.4	100.0%	95.7	100.0%	178.5	100.0%
営業利益	6.9	-	8.6	-	44.5	24.9%

	キャビン		アスバジ・ジャパン		リンクセオリ- HD		ビューカンパニー	
		売上比		売上比	売上比		売上比	
連結対象期間	06/9～07/2		06/9～07/2		06/9～07/2		06/12～07/2	
売上高	117.4	100.0%	3.5	100.0%	持分法適用/営業外損益		持分法適用/営業外損益	
営業利益	1.2	1.1%	0.7	-	15.7	2	0.5	3

- FRフランスには、コントワー・デ・コトニエ事業、プリンセス・タム・タム事業等の業績が含まれています。
- 営業外損益として、リンク・セオリ-ホールディングスの「持分法による投資損失(06/9～07/2)」 15.7億円を計上しています。
- 営業外損益として、ビューカンパニーの「持分法による投資損失(06/12～07/2:3ヶ月間)」 0.5億円を計上しています。
(内訳:同社期間損益相当 0.3億円、同社株式取得に伴う投資差額償却 0.2億円)

8

次に、主な連結対象会社の上期の業績についてコメントいたします。

まず、ジーユーですが、上期の業績は売上高が13億円、営業損失が6.9億円でした。

ワンゾーンにつきましては、業界の激しい価格競争により、値引き幅が拡大し、営業損失は8.6億円と、計画を下まわる厳しい結果となりました。

次にコントワー・デ・コトニエとプリンセス・タム・タムを傘下にもつ、FRフランスの業績ですが、売上高178億円、営業利益44億円と、計画を上回る数値を達成することができました。

コントワー・デ・コトニエ事業は、上期の既存店売上高が前年同期比約15%増、全店ベースでは約32%増となり、売上高が122億円、営業利益が38億円でした。プリンセス・タム・タム事業も好調で、売上高56億円、営業利益8億円を計上しております。

キャビンにつきましては昨日、2007年2月期業績開示がありました。9月から2月の6ヶ月間の業績は、売上高117億円、営業利益1億円となっております。

リンク・セオリ-ホールディングスにつきましては、業績の大幅な下方修正があったため、「持分法による投資損失」として15億円を計上しております。

なお、この第2四半期より、ビューカンパニーが持分法適用関連会社として、連結業績に加わっており、「持分法による投資損失」として5千万円を計上しております。

単位: 億円

	UNIQLO (U.K.)		FRJS		UNIQLO USA		FRL Korea		UNIQLO H.K.	
	【英国】	売上比	【中国】	売上比	【米国】	売上比	【韓国】	売上比	【香港】	売上比
連結対象期間	06/9 ~ 07/2		06/7 ~ 06/12		06/9 ~ 07/2		06/9 ~ 07/2		06/9 ~ 07/2	
売上高	21.0	100.0%	11.2	100.0%	18.8	100.0%	23.6	100.0%	11.4	100.0%
営業利益	0.6	-	1.0	8.9%	9.5	-	1.6	6.8%	2.6	23.4%

9

続きまして、海外ユニクロの上期の業績ですが、英国事業は、売上は予算を達成しましたが、販管費が計画を上回ったことにより、利益面で計画を若干下回る結果となりました。

中国、香港事業は売上・利益とも順調に推移し、予算を達成することができました。

米国は、ニューヨーク・ソーホーのグローバル旗艦店の売上が順調に推移し、売上は計画を達成しましたが、オープンに伴う販促費や人件費が増加したため、営業赤字が9億円と拡大しました。

韓国事業は前年に比べて大きく売上を伸ばし、ほぼ計画どおりとなっています。

特別利益 + 18億円

- キャビン 固定資産売却益 + 13億円
- ワンゾーン 店舗敷金保証金 貸倒引当金戻入 + 2億円

特別損失 17億円

- 固定資産除却損、店舗閉店損失 (国内ユニクロ、キャビン等) 4億円
- 店舗資産 減損損失 (ワンゾーン、キャビン等) 9億円

(注) (株)ファーストリテイリング単体の特別損失として 28億円(関係会社株式評価損)を計上していますが、連結上のPLには影響はありません。

中間期の特別損益については、特別利益 + 18億円、特別損失 17億円を計上しています。

特別利益の内訳は、キャビンの固定資産売却益13億円、ワンゾーン店舗敷金・保証金に対する貸倒引当金の戻入2億円などです。

特別損失の内訳は、ユニクロやキャビンなどの退店やリニューアルに伴う除却損4億円、ワンゾーン、キャビンなどにおける店舗資産の減損9億円などです。

尚、(株)ファーストリテイリング単体の特別損失としてユニクロUSAの関係会社株式評価損を約28億円計上していますが、連結上のPLには影響はありません。

単位：億円

	2006年8月末	2007年2月末	増 減
総資産	3,796	3,945	+149
流動資産	2,503	2,596	+92
固定資産	1,293	1,349	+56
負 債	1,391	1,348	43
純資産	2,404	2,597	+192

11

次に中間期末の連結バランスシートのご説明をいたします。

2006年8月末との比較では、流動資産が92億円、固定資産が56億円増えたことから、全体の総資産は3,945億円と149億円の増加となりました。

現金・預金 及び有価証券 +168億円 (1,471億円 1,640億円)

- 【国内ユニクロ等】営業キャッシュフローの増加

たな卸資産の増加 +13億円 (428億円 442億円)

- 【国内ユニクロ】 +6億円 【ジーユー】 +5億円

有形固定資産の増加 +31億円 (298億円 330億円)

- 【米国ユニクロ】 +14億円 【国内ユニクロ】 +10億円 【ジーユー】 +5億円

敷金・保証金の増加 +21億円 (296億円 317億円)

- 【国内ユニクロ】 +15億円

まず、流動資産ですが、
 現預金及び有価証券の合計額は、8月末比で168億円増加しております。
 これはおもに、国内ユニクロ事業等の営業キャッシュフローの増加によるものです。

次に、たな卸資産は、8月末比で13億円増加しております。
 この要因は、国内ユニクロが6億円、ジーユーが5億円などです。
 また、国内ユニクロのたな卸資産は、前年同期比では53億円増加しています。

有形固定資産については、8月末比で31億円増加しております。
 このうち、米国のソーホー ニューヨーク店出店にともなう資産の増加が14億円、
 国内ユニクロの出店による増加が10億円、ジーユーの出店による増加が5億円です。

また、敷金・保証金が21億円増加しております。
 このうち15億円が、国内ユニクロの店舗に関連する増加です。

株式会社ユニクロ 下期業績予想

単位：億円

	2006年8月 下期 実績	2007年8月下期		2007年8月下期		
		直近予想 (1/11修正)	前年同期比	修正予想	前年同期比	直近予想比
売上高 (売上比)	1,789 100.0%	1,976 100.0%	+ 10.4%	2,012 100.0%	+ 12.5%	+ 1.9%
売上総利益 (売上比)	830 46.4%	941 47.6%	+ 13.3% (+ 1.2p)	949 47.2%	+ 14.3% (+ 0.7p)	+ 0.8% (- 0.5p)
販管費 (売上比)	574 32.1%	636 32.2%	+ 10.9% (+ 0.1p)	644 32.0%	+ 12.2% (- 0.1p)	+ 1.2% (- 0.2p)
営業利益 (売上比)	256 14.3%	304 15.4%	+ 18.8% (+ 1.1p)	304 15.1%	+ 18.8% (+ 0.8p)	+ 0.0% (- 0.3p)

(注) 国内ユニクロ事業の業績については、2007年8月期より、㈱ユニクロの業績数値を開示しています。この数値と対応させるため、2006年8月期の実績値は、2005年9月から2005年10月の2ヶ月間の旧㈱ファーストリテイリング単体ベースの実績に、2005年11月以降の㈱ユニクロの実績を加算した数値となっております。㈱ユニクロの2006年8月期業績数値については、本説明スライド23番をご参照ください。

13

ここからは、2007年8月期の業績予想についてご説明します。

株式会社ユニクロの2007年8月期下期の売上高予想は、2,012億円とし、従来予想から36億円増額しております。既存店売上高前年比は、1.2%増の予想から、3.9%増の予想といたします。売上高総利益については、47.6%から47.2%に修正します。

また、販管費は契約社員・準社員の地域限定正社員化にともなう経費が4億円増加することなどによる経費増を反映させ、644億円といたします。

2007年8月期下期の営業利益は304億円の予想としております。

株式会社ユニクロ 通期業績予想

単位: 億円

	2006年 8月期 実績	2007年8月期通期		2007年8月期通期		
		直近予想 (1/11修正)	前期比	修正予想	前期比	直近予想比
売上高 (売上比)	3,936 100.0%	4,302 100.0%	+ 9.3%	4,355 100.0%	+ 10.7%	+ 1.2%
売上総利益 (売上比)	1,829 46.5%	1,996 46.4%	+ 9.1% (0.1p)	1,992 45.7%	+ 8.9% (0.7p)	0.2% (0.6p)
販管費 (売上比)	1,140 29.0%	1,270 29.5%	+ 11.4% (+ 0.5p)	1,280 29.4%	+ 12.2% (+ 0.4p)	+ 0.8% (0.1p)
営業利益 (売上比)	688 17.5%	725 16.9%	+ 5.4% (0.6p)	712 16.3%	+ 3.4% (1.1p)	1.9% (0.5p)

(注) 国内ユニクロ事業の業績については、2007年8月期より、㈱ユニクロの業績数値を開示しています。この数値と対応させるため、2006年8月期の実績値は、2005年9月から2005年10月の2ヶ月間の旧㈱ファーストリテイリング単体ベースの実績に、2005年11月以降の㈱ユニクロの実績を加算した数値となっております。(2006年4月13日発表の中間期スライドに掲載してありました国内ユニクロ事業の社内管理数値には、2005年8月期との比較のため、持株会社である㈱ファーストリテイリングの販管費が含まれています) ㈱ユニクロの2006年8月期業績数値については、本説明スライド23番をご参照ください。

14

その結果、通期の業績予想につきましては、
売上高4,355億円、前期比10.7%増、
営業利益は712億円、前期比3.4%増に修正しております。

【国内ユニクロ】業績予想の前提

	2006年8月期 実績			2007年8月期 予想			前期比		
	売上高	3,936 億円			4,355 億円			+10.7%	
既存店伸び率	+0.7%			+3.3%			+2.6p		
売上高総利益率	46.5%			45.7%			0.8p		
通期	46.5%			44.5%			2.0p		
上期(実績)	46.4%			47.2%			+0.8p		
下期	46.4%			47.2%			+0.8p		
出退店数(直営店)	出店	退店	純増	出店	退店	純増	出店	退店	純増
通期	84	45	+39	75	47	+28	9	+2	11
(店舗)									
大型店	4	0	+4	21	0	+21	+17	0	+17
標準店等	71	45	+26	52	47	+5	19	+2	21
専門店	9	0	+9	2	0	+2	7	+0	7
上期(実績)	44	26	+18	38	28	+10	6	+2	8
大型店	4	0	+4	10	0	+10	+6	0	+6
標準店等	35	26	+9	28	28	0	7	+2	9
専門店	5	0	+5	0	0	0	5	0	5
下期	40	19	+21	37	19	+18	3	+0	3
大型店	0	0	0	11	0	+11	+11	0	+11
標準店等	36	19	+17	24	19	+5	12	0	12
専門店	4	0	+4	2	0	+2	2	0	2

ユニクロ直営店出店数のうち、標準店等にエキナカ・エキチカのユニクロ小型店も含まれます。

また専門店には、ウイメンズインナー専門店「BODY by UNIQLO」、キッズ専門店「ユニクロ キッズ」を含みます。

15

こちらのスライドで業績予想の前提を一覧にしておりますので、ご参照ください。

なお、出退店数は、上期の実績は純増10店舗となり、下期については、純増18店舗を予想しています。

なお、大型店につきましては、上期10店舗出店し、下期は、11店舗の出店を予定しております。

店舗名	都道府県	区市町村	オープン時期
ラブラ万代店	新潟県	新潟市	3月2日
新鎌ヶ谷店	千葉県	鎌ヶ谷市	3月16日
神戸ハーバーランド店	兵庫県	神戸市	3月30日
名古屋みなと店	愛知県	名古屋市	4月下旬(予定)
イオン高松店	香川県	高松市	4月下旬(予定)
ロックシティ水戸南店	茨城県	茨城郡	4月下旬(予定)
世田谷千歳台店	東京都	世田谷区	5月下旬(予定)
ゆめタウン博多店	福岡県	福岡市	5月下旬(予定)
ロックタウン鈴鹿店	三重県	鈴鹿市	6月下旬(予定)
コーナン中百舌鳥SC店	大阪府	堺市	7月下旬(予定)

こちらは現時点で下期に出店が決定している大型店の一覧です。



ユニクロ

3月30日 同時オープン



フットパーク



キャビン

17

こちらのスライドの左が、3月30日にオープンしましたユニクロ神戸ハーバーランド店の写真です。

ユニクロ神戸ハーバーランド店は、日本最大である990坪の売場面積で、各シーズン1,000アイテムと圧倒的な商品ラインナップを展開しています。

オープン以降の売上は順調に推移しております。

この店舗は、右側の写真でご覧いただいております当社グループのフットパーク、キャビンと同じフロアに出店し、同時オープンいたしました。

単位: 億円

	ジーユー		ワンゾーン		FRフランス ¹	
	売上高	売上比	売上高	売上比	売上高	売上比
連結対象期間	06/9~07/8		06/9~07/8		06/9~07/8	
売上高	53.1	100.0%	215.8	100.0%	345.4	100.0%
営業損益	9.2	-	9.7	-	65.5	19.0%

	キャビン		アスバジ・ジャパン		リンク・セオリー・HD		ビューカンパニー	
	売上高	売上比	売上高	売上比	売上高	売上比	売上高	売上比
連結対象期間	06/9~07/8		06/9~07/8		06/9~07/8		06/12~07/8	
売上高	228.5	100.0%	9.3	100.0%	持分法適用/営業外損益		持分法適用/営業外損益	
営業損益	3.1	1.4%	1.2	-	20.0	2	0.9	3

- FRフランスの数値には、コントワー・デ・コトニエ事業、プリンセス・タム・タム事業等の業績が含まれています。
- 営業外損益として、リンク・セオリー・ホールディングスの「持分法による投資損失(06/9~07/8)」 20.0億円の計上を予想しています。
- 営業外損益として、ビューカンパニーの「持分法による投資損益(06/12~07/8:9ヶ月間)」 0.9億円の計上を予想しています。
(内訳: 同社期間損益相当 0.2億円、 同社株式取得に伴う投資差額償却 0.7億円)
- 2007年8月期通期ののれん償却金額は、42億円を予定しています。

18

それでは次に、連結対象会社の通期の業績予想についてコメントいたします。

ジーユーは、売上高53億円、営業損失9億円と1月11日の従来予想から変更しておりません。新規事業を立ち上げて、この下期の終了をもって一年が経過しますので、その経験を商品や店舗開発に活かし、収益性をたかめていきたいと考えています。

ワンゾーンの通期の業績予想につきましては、上期に赤字幅が拡大したことを反映し、通期でも予想を変更しております。
下期は、オリジナル商品の構成比を増やし、利益率の改善にも努めてまいります。

FRフランスの通期の業績予想は好調なコントワー・デ・コトニエのヨーロッパ事業の上期業績を反映させ、売上高345億円、営業利益65億円に増額修正しております。
コントワー・デ・コトニエ事業は、フランス以外のヨーロッパ各地への出店もすすんでおり、グローバル化を進めております。
プリンセス・タム・タムは、卸中心から直営店強化の方向性が定まりつつあります。

キャビンは、昨日の業績発表および予想を踏まえ、若干変更をしております。
こちらは、ファーストリテイリングの連結決算期にあわせた数値で表示しており、売上高228億円、営業利益3億円へと修正いたしました。

リンク・セオリー・ホールディングスの持分法による投資損失につきましては、同社の業績修正を反映し、通期で20億円の営業外損失に修正いたしました。

ビューカンパニーの持分法による投資損失につきましては、通期で9千万円の損失としております。

単位：億円

	UNIQLO (U.K.)		FRJS+FRCN		UNIQLO USA		FRL Korea		UNIQLO H.K.	
	[英国]	売上比	[中国]	売上比	[米国]	売上比	[韓国]	売上比	[香港]	売上比
連結対象期間	06/9～07/8		06/7～07/6		06/9～07/8		06/9～07/8		06/9～07/8	
売上高	44.0	100.0%	23.3	100.0%	33.9	100.0%	43.8	100.0%	22.3	100.0%
営業損益	4.2	-	1.2	5.1%	13.6	-	1.5	3.6%	4.8	21.6%

中国におけるユニクロ事業は、2007年8月期中に、FRJS「迅銷(江蘇)服飾有限公司」から、新会社であるFRCN「迅銷(中国)商貿有限公司」へ移行される予定です。業績予想については、FRJSとFRCNの業績予想数値の合算を掲載しております。

海外ユニクロ事業については、

英国は、秋にオープン予定の旗艦店を含む大型店2店の出店コスト約4億円を加味した数値に修正しております。

中国、香港、韓国の業績は、順調な上期の実績を反映させております。

米国につきましては、上期の経費増を反映し、営業損失を約13億円に修正いたします。

単位：億円

	2006年 8月期実績	2007年8月期		2007年8月期		
		直近予想 (1/11修正)	前期比	修正予想	前期比	直近予想比
売上高 (売上比)	4,488 100.0%	5,325 100.0%	+ 18.6%	5,382 100.0%	+ 19.9%	+ 1.1%
売上総利益 (売上比)	2,124 47.3%	2,562 48.1%	+ 20.6% (+ 0.8p)	2,553 47.4%	+ 20.2% (+ 0.1p)	0.3% (- 0.7p)
販管費 (売上比)	1,420 31.7%	1,804 33.9%	+ 27.0% (+ 2.2p)	1,819 33.8%	+ 28.0% (+ 2.1p)	+ 0.8% (- 0.1p)
営業利益 (売上比)	703 15.7%	758 14.2%	+ 7.7% (- 1.4p)	734 13.6%	+ 4.4% (- 2.0p)	3.1% (- 0.6p)
経常利益 (売上比)	731 16.3%	764 14.3%	+ 4.5% (- 1.9p)	721 13.4%	1.4% (- 2.9p)	5.6% (- 0.9p)
特別損益 (売上比)	3 0.1%	12 0.2%	- (- 0.1p)	5 0.1%	- (- 0.0p)	- (+ 0.1p)
当期純利益 (売上比)	404 9.0%	410 7.7%	+ 1.4% (- 1.3p)	381 7.1%	5.6% (- 1.9p)	6.9% (- 0.6p)

20

以上の変更を踏まえ、通期の連結業績予想については、
 売上高5,382億円、前期比19.9%増、
 営業利益734億円、前期比4.4%増、
 経常利益は721億円、前期比1.4%減、
 当期純利益は381億円、前期比5.6%減といたします。

売上では前期比19.9%の増収を見込んでおりますが、
 子会社の赤字拡大、のれん償却金額の増加、
 リンク・セオリー・ホールディングスの持分法による投資損失の影響により、
 経常利益では減益となる見込みです。

2007年8月期 年間配当金 140円を予想

	2006年8月期(実績)		2007年8月期(予想)		
		中間	期末	中間 (実績)	期末 (予想)
1株配当金	130円	65円	65円	70円	70円

業績や資金需要に大きな変動が生じた場合、配当金額を変更することがあります。

2007年8月期の配当金については、業績予想を修正いたしましたが、年間140円を変更しておりません。

連結対象会社別出退店 実績・予想

【単位：店舗】	06年8月				2007年8月期				
	期末	中間期実績			通期 予想			期末	
		出店	退店	純増減	中間期末	出店	退店		純増減
ユニクロ事業合計	750	50	30	+20	770	90	51	+39	789
国内ユニクロ事業：	720	39	28	+11	731	76	47	+29	749
直営店 ¹	703	38	28	+10	713	75	47	+28	731
大型店	7	10	0	+10	17	21	0	+21	28
標準店等	687	28	28	0	687	52	47	+5	692
専門店	9	0	0	0	9	2	0	+2	11
FC	17	1	0	+1	18	1	0	+1	18
海外ユニクロ事業：	30	11	2	+9	39	14	4	+10	40
英国：	8	1	0	+1	9	4	1	+3	11
中国： ²	7	2	0	+2	9	2	0	+2	9
米国：	4	3	2	+1	5	3	3	0	4
韓国：	10	4	0	+4	14	4	0	+4	14
香港：	1	1	0	+1	2	1	0	+1	2
ジーユー事業	-	25	0	+25	25	50	0	+50	50
ワンゾーン事業	330	14	15	1	329	20	20	0	330
コントワー・デ・コトニエ事業	244	32	2	+30	274	62	4	+58	302
プリンセス タム・タム事業 ²	100	9	2	+7	107	28	2	+26	126
キャビン事業	201	21	9	+12	213	28	13	+15	216
アスベジ事業	7	2	0	+2	9	5	0	+5	12
総合計	1,632	153	58	95	1,727	283	90	+193	1,825

- 1 ユニクロ直営店のうち、標準店等にはエキナカ・エキチカのユニクロ小型店も含まれます。
また専門店には、ウイメンズインナー専門店「BODY by UNIQLO」、キッズ・ベビー専門店「ユニクロ キッズ」を含みます。
- 2 決算期が異なるため、ユニクロ中国事業及びプリンセス タム・タム事業の店舗数は、8月期末は6月末に、中間期末は12月末となります。

最後に、ご参考として、

・出退店の一覧表、

また、

・株式会社ユニクロとしての2006年8月期実績数値を

決算期毎にまとめましたので、

ご参照ください。

以上をもちまして、私からのご説明を終わります。

ありがとうございました。

単位：億円

	2006年8月期 株式会社ユニクロ 実績			
	第1四半期	中間期	第3四半期	通期
売上高 (売上比)	1,094 100.0%	2,146 100.0%	919 100.0%	3,936 100.0%
売上総利益 (売上比)	517 47.3%	998 46.5%	440 47.9%	1,829 46.5%
販管費 (売上比)	288 26.4%	566 26.4%	283 30.8%	1,140 29.0%
営業利益 (売上比)	229 21.0%	432 20.1%	157 17.1%	688 17.5%